



絵双六に描かれる女性 江戸から明治へ

江戸時代の女性の出世双六は、町人の現実生活をそのまま写した内容のものが多くみられました。それは双六で遊んだ町人の子どもたちの生活を反映したものであったでしょう。

明治に入ると、双六が雑誌の付録として作られることも多くなり、商店の広告用にも作られるようになりました。そのため女性を対象とした絵双六の内容も多様になり、さまざまな階層や年齢層に合わせたものになってきます。

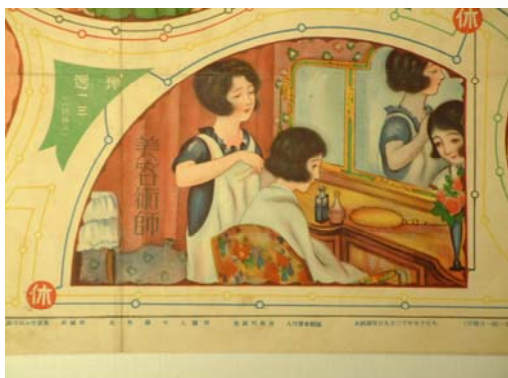
上流家庭の女性を描いたものには、お稽古事の様子や、教養、作法を身につけている淑女の美しい姿を描いたものがあります。また大丸呉服店の広告用の双六では、一人の女性の誕生から嫁入りまでを廻り双六で描き、ところどころに自分の店の売り出し宣伝を入れています。

大正時代末年から昭和にかけては、双六で女性の新しい職業が紹介され、女性の生き方にさまざまな可能性が開かれてきたことが分かります。

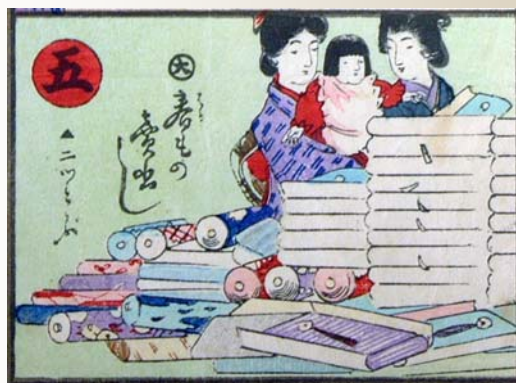
(黒石 陽子)



14. 「女子家庭双六」



17. 「少女運だめし双六」



12. 「令嬢成長双六」

江戸・明治の出世双六